



## 活動の場所

沖縄県内のサンゴ礁、干潟、森林等



## 活動目的

亜熱帯海洋性気候に属し、大小160の島々からなる沖縄県は、サンゴ礁、海草藻場、干潟、マングローブ、照葉樹林など独特で多様な生態系を有し、世界的にも生物多様性のホットスポットとなっています。各分野の専門技術を活かした環境の調査・研究を行い、その成果を沖縄の生物多様性保全に活かすことを目的に活動を行っています。

## 活動内容

### ◆環境コンサルタント事業

国や県からの委託を受け、保護区をはじめ沖縄県内全域の自然環境調査や希少種の保護対策、外来種対策を実施しています。

#### ○希少種の保護対策

沖縄にはジュゴン、ヤンバルクイナなど多くの希少野生動植物が生育・生息しています。分布状況の調査や、保護のための取り組みを行っています。

#### ○外来種対策

マングース、タイワンハブなど多くの外来種が定着し、沖縄の生物多様性を脅かしています。侵略的な外来種の防除を進めるとともに、ヒアリなど新たな外来種を侵入させないためのモニタリングや普及啓発を実施しています。



ヤンバルクイナ

### ◆調査研究

センターの自主研究として、サンゴ礁や希少種の調査研究を続けています。

#### ○ジュゴンの生態解明に関する調査研究

沖縄県内のジュゴンや海草藻場の保全を目的として、目撃情報の収集や喰み跡の分布に関する調査を実施し、謎の多いジュゴンの生態解明に取り組んでいます。

#### ○30年以上にわたるサンゴ礁調査

大学等機関と連携し、サンゴ類の分布に関する遺伝学的・生物地理学的な研究に取り組んでいます。

○希少生物の保全に関する研究 希少生物の分布や生態に関する調査を行っています。



ジュゴン

## PRしたいポイント

- 陸域・海域の調査や保全技術に関する各分野の専門家が所属し、調査や保全のノウハウを蓄積
- 地域の団体・個人や農林水産業の関係者、民間企業、有識者など多様な主体と連携しながら保全事業を推進
- 沖縄県内外の大学や国立研究開発法人など多くの研究機関と連携し、最先端の知見や技術を活用
- 新規のモニタリング手法や外来種捕獲技術を開発

## 活動効果、今後の展開 等

県内各地で実施している調査結果や自主研究の成果は、保護区の設定や希少種の保全対策に役立てられています。沖縄の自然は、気候変動、外来種、開発、汚染、過剰利用など多くの課題を抱えています。これまでに培った専門技術を最大限に活かしながら課題に向き合い、生物多様性の保全に貢献していきます。